

令和7年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	60	49	40	9.1	12.8
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	448
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和7年度 全国学力学習状況調査結果より

国 語

【成果と課題】

大阪府の平均点まであと3点に迫ることができた。基礎知識や語彙力に関してはおおむね定着が見られた。読むことに関する正解率が高かった。文章全体の構成を捉え、筆者の意図を踏まえて自分の考えを表現する問題に課題があった。また、基本的な語句や読み取り問題においても解けない生徒の割合が多かった。

【今後に向けて】

読書量や言語体験の差が、理解力や表現力の差につながっていると考えられる。今年度から、「読書」の取り組みを行い読解力向上に努めている。「何を書いたらいいかわからない」と最初から諦めて手をつけない生徒もいるので、完璧な解答でなくても良いこと「一文だけでもよいから書くこと」の練習を積ませている。

数 学

【成果と課題】

平均正答率は40％であり、全国と比べて－8.3ポイントであった。前年度と比べて全国との差は3.2ポイント縮まったが、まだまだ多くの課題が残る結果となっている。特に学習指導要領の領域のうちでは「関数」や「図形」が大きく下回っており、「思考・判断・表現」の観点別正答率が低いことから、知識・技能にとどまらず、それらを活用して論理的に考え、表現する力に課題があると考えられる。

この現状を踏まえ、今後の授業改善においては生徒が自ら問いを立て、多様な方法で探求し、得られた知見を他者と共有する『主体的・対話的で深い学び』を推進していく必要がある。

【今後に向けて】

数学科においては上記の成果と課題を踏まえ、今後以下のような取り組みを実施する。

(1) 授業改善

・問題解決型学習の導入：単元ごとの終末に、関数や図形の知識を応用して現実世界の問題を解決する課題を設定する。生徒が興味を持って取り組める題材を積極的に取り入れる。

・協働学習の促進：グループワークやペアワークを増やし、生徒同士が互いの考えを説明し合い、疑問点を解決する機会を設ける。これにより、自分の思考を言語化する力と、他者の考えを理解する力を養う。

(2) 評価方法の改善

・多面的な評価の導入：定期テストだけでなく、授業内での発表、レポート、グループ活動への貢献度など、多様な側面から生徒の学習状況を評価する。これにより、単なる知識の有無だけでなく、思考力や表現力といった汎用的な能力も公正に評価する。

これらの取り組みを通じて、数学の面白さや実用性を実感させながら、生徒一人ひとりの「思考・判断・表現」の力を確実に伸ばしていくことを目指す。

理 科

【成果と課題】

今年度の結果としては、「大阪府標準偏差127.8ポイント・本校108.5ポイント」という結果であり、大阪府の標準偏差から19.3ポイント下回った結果となった。昨年度、2年次に受験したチャレンジテストの平均点では、大阪府平均から＋2.5点であった。今年度の大阪府の標準偏差から19.3ポイント下回ったことをふまえると、1.2年次に学習した内容からの出題のため、範囲が広く、復習不足であると考えられる。今回の設問からでは、学習領域ごとの分析は難しかった。問題形式では、選択式は、無解答率が0％に対し、記述式では、無解答率が31.9％(大阪府13.4％)であり、思考判断表現の観点が苦手な生徒が多いことが分かった。選択式でも、思考判断表現の観点も問題では、正答率が30％以下であった。

【今後に向けて】

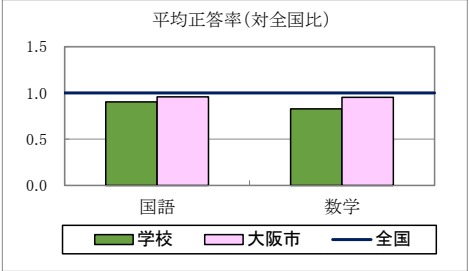
全体として、思考判断表現の観点の得点率が著しく低いことがいえる。これを改善するためには、「問題を読み解く力」と「考えを表現する力」を養っていく必要がある。授業の中でも、答えを導くことや文を読み解くことを苦手とする生徒も少なくない。暗記するのではなく、実験や観察を通して解答を導くための方法を指導していく。

令和7年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

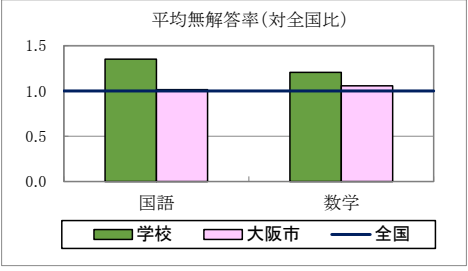
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	49	40
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

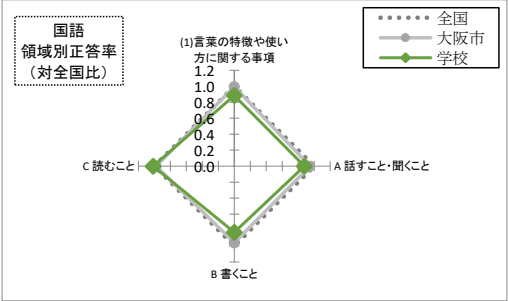
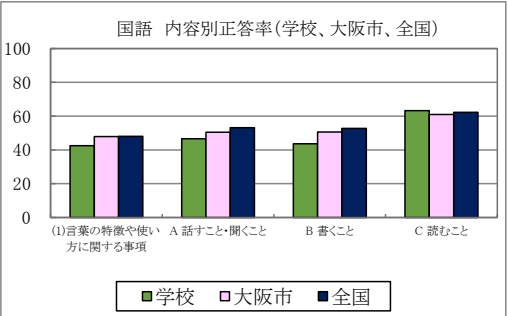


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	9.1	12.8
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



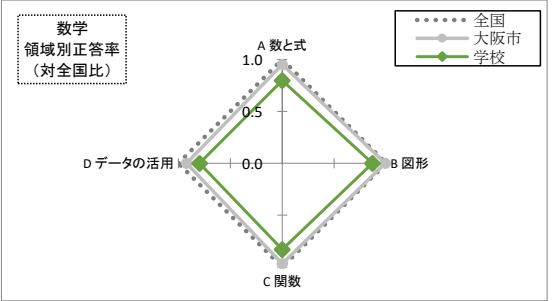
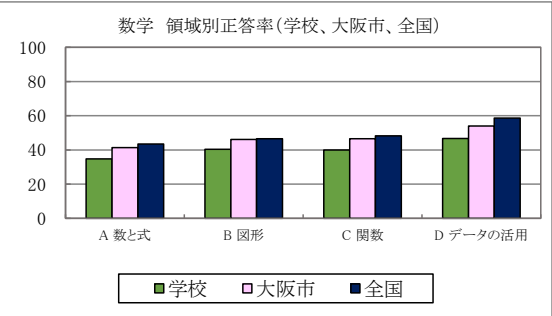
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	42.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	46.7	50.4	53.2
B 書くこと	5	43.7	50.6	52.8
C 読むこと	3	63.3	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	34.7	41.4	43.5
B 図形	4	40.4	46.1	46.5
C 関数	3	40.0	46.6	48.2
D データの活用	3	46.7	54.0	58.6

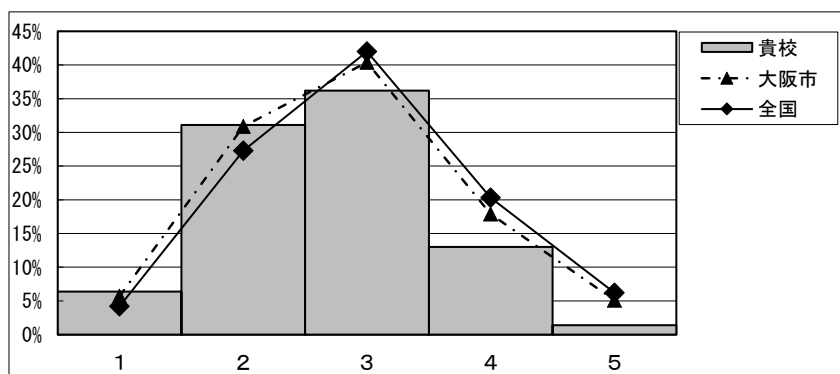
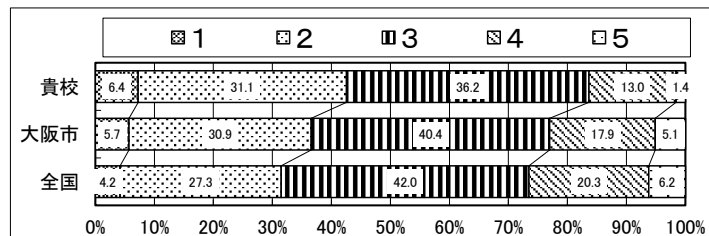


令和7年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	448
大阪市	489
全国	503



令和7年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

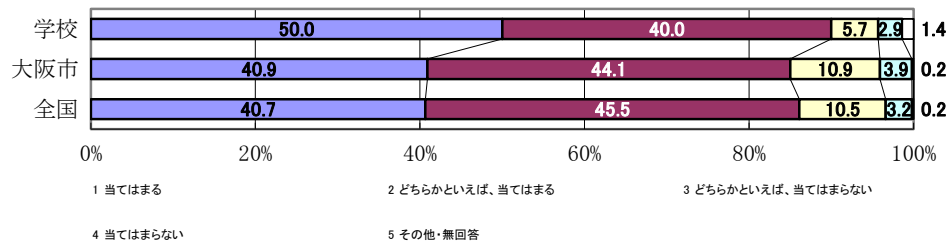
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

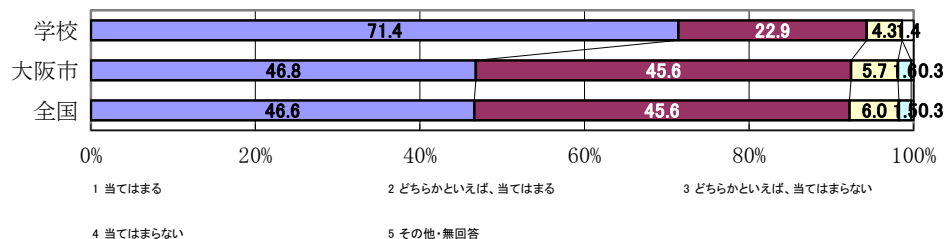
5

自分には、よいところがあると思いますか



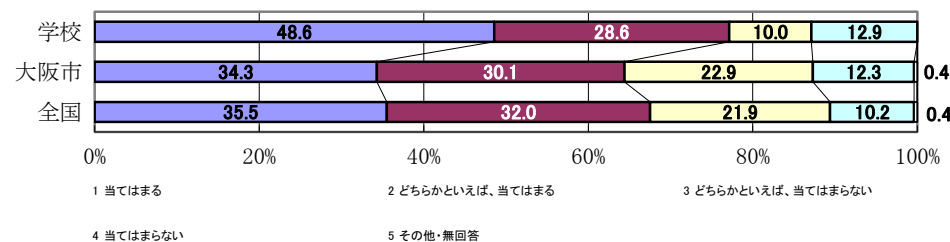
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



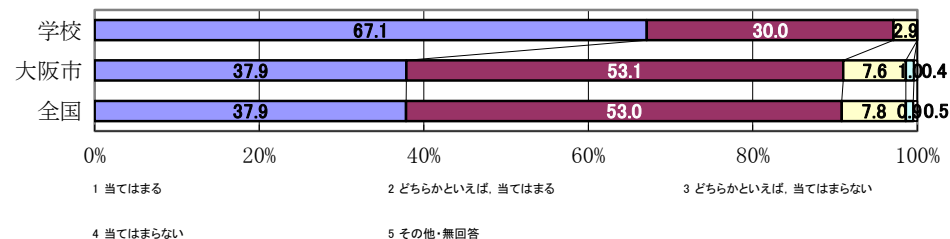
7

将来の夢や目標を持っていますか



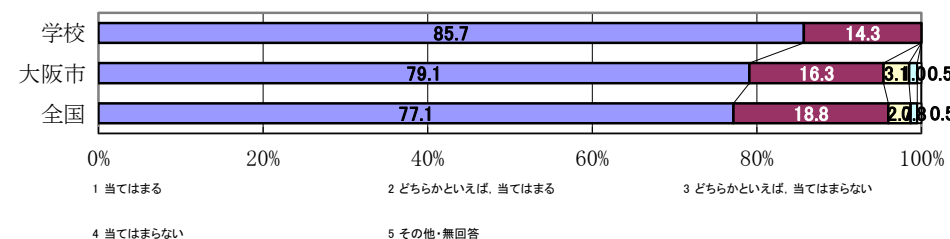
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



令和7年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

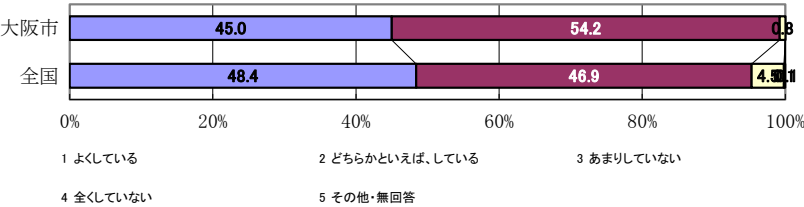
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

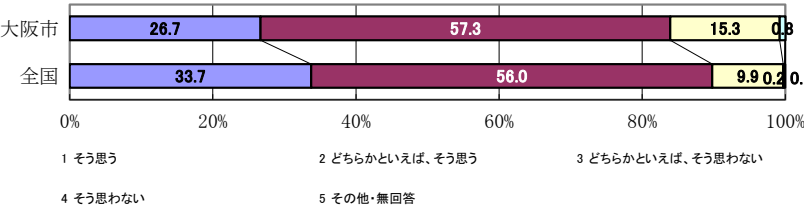
学校 「よくしている」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

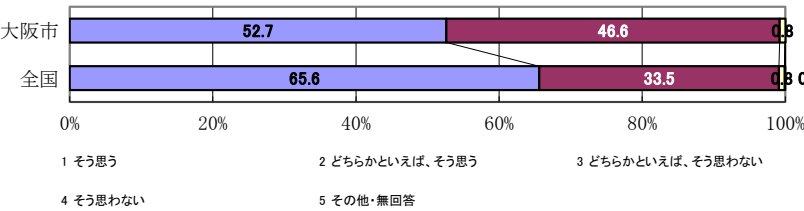
学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

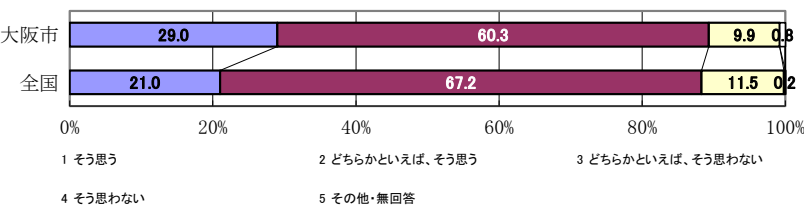
学校 「そう思う」を選択



25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



57

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

